

**外国語教育メディア学会(LET)
第81回 (2013年度春季) 中部支部研究大会**

プログラム

日時： 2013年5月25日 (土) 10:30-19:00

会場： 東海学園大学 名古屋キャンパス

〒468-8514 名古屋市天白区中平二丁目901番地

主催： 外国語教育メディア学会(LET)中部支部

後援： 愛知県教育委員会

問い合わせ先：

〒487-8501 春日井市松本町1200

中部大学 語学センター

外国語教育メディア学会中部支部事務局 小栗成子

電話：0568-51-6649

メール：支部サイト(<http://www.letchubu.net>)の「お問い合わせ」

Twitter: @LETChubu

日程

10:00 受付 3号館1階ホール
10:00 展示 3号館1階ホール

10:30 開会行事 311大講義室
司会： 松原 緑（名古屋大学）
主催者挨拶： 尾関 修治（LET中部支部支部長）
開催校挨拶： 奥田 達也（東海学園大学 教育学部長）

10:45-12:00 講演 311大講義室
「分厚い中間層の学生を対象としたグローバル人材育成の方策と成果」
講師： 小野 博（福岡大学・昭和大学客員教授、日本リメディアル教育学会ファウンダー）
講師紹介： 鈴木 薫（名古屋学芸大学短期大学部）

福岡大学では、分厚い中間層の学生（TOEIC350～450）をグローバル人材に育成する英語教育プログラムを平成25年度から本格的に始めることとし、それに先駆けて、24年11月から7週間のトライアル学習を実施した。その間、月曜日から木曜日の5・6次限の対面学習に加え、週末講座や課題を多く課した。

英語学習に合わせて学習に対する動機付けとモチベーションの維持を目的に、

- (1) 役者を指導者とするコミュニケーション能力育成ワークショップ
- (2) 留学生と共同作業を行うグローバル対応力育成ワークショップを実施した。

英語学習として、

- (1) 問題数が多く、間違えた問題が繰り返し学習可能なNewton社のTOEI対応e-learning教材、および
- (2) 学生の興味をそそる多彩な映像を用いたEnglishCentral社のspeaking学習教材を用意し、2つの教材の併用学習により英語力のアップと英語学習へのモチベーションの維持に努めた。
- (2) 学習者相互のinteractionを重視したInteractive English
- (3) スコアアップを目指すTOEIC講座

更には、

- (4) 欧米で盛んなコミュニケーション能力育成方法である英語によるドラマメソッド
- (5) ロス在住ジャーナリストによる「やさしい英語による授業」や大学関係者・経済人の講演会
- (6) 英語による会話への話題づくりや広く社会を知るための新聞購読（毎日）等も実施した。

海外の短期英語研修の事前学習である対面授業に参加した「対面学習組」38人とe-learningのみの学習を実施した「ネット学習者」42名の学習状況・成果の比較分析結果について報告する。また、2週間のOxford大学における短期英語研修への学生の取り組みについて報告したい。特に毎日英語だけの6時間の授業に積極的に参加した学生の英語学習への思いや、授業を担当したOxford大学の教員の学生への高評価の原因の分析、指導教員が考える「海外研修に参加し成果が出やすい学生」についての考え等を報告する。

12:00-13:10 昼食・展示

12:10-13:10 支部役員会

2号館地下大会議室

13:10-13:30 支部総会

311大講義室

13:40-15:55 研究発表

420・421講義室

<第1室>

420講義室

(1) 13:40-14:10 (2) 14:15-15:45 (3) 14:50-15:20

司会： 吉川 りさ (名古屋大学)

安達 理恵 (愛知工科大学)

(1) 「A different role of vocabulary knowledge in reading comprehension: A case of Japanese learners of English」

吉川 りさ (名古屋大学)

(2) 「画像を利用したメタファー学習の可能性について--日中両言語における〈怒り〉のメタファーを例に」

韓 涛 (名古屋大学大学院)

(3) 「シンガポールのICTを利用した 効果的なactive learning」

安達 理恵 (愛知工科大学)

<第2室>

421講義室

(1) 13:40-14:10 (2) 14:15-15:45 (3) 14:50-15:20 (4) 15:25-15:55

司会： 鈴木 薫 (名古屋学芸大学短期大学部)

飯尾 晃宏 (静岡県立浜松湖南高等学校)

(1) 「体感音響振動を活用した聴覚障がい者の英語発話の改善—教員による音声評価の自由記述の分析—」

鈴木 薫 (名古屋学芸大学短期大学部)

(2) 「キー入力記録システムを援用したライティングプロセスの可視化：自律的学習を促すフィードバック環境構築に向けて」

草薙 邦広 (名古屋大学大学院)

阿部 大輔 (名古屋大学大学院)

福田 純也 (名古屋大学大学院)

川口 勇作 (名古屋大学大学院)

(3) 「英語母語話者と学習者の読解における処理単位に関する研究—視線計測による単語の読み飛ばしの観察データに基づいて—」

杉浦 正利 (名古屋大学)

梁 志鋭 (名古屋大学)

阿部 大輔 (名古屋大学大学院)

(4) 「エクセルを用いた統計学的分析と音声ファイル編集ソフトの活用」

飯尾 晃宏 (静岡県立浜松湖南高等学校)

16:00-17:30 ワークショップ 434・438演習室
<第1室> 438演習室
「Rによる統計グラフ入門」
講師： 小林 雄一郎 (日本学術振興会)
阪上 辰也 (広島大学)

本ワークショップの目的は、統計処理環境Rを用いて、言語データや教育データの基本的な処理方法を学び、適切な統計グラフの描き方を学ぶことである。ワークショップの前半では、Rのインストール方法、データの読み込み方、Rプログラミングの基本（変数、代入、関数など）、記述統計量（平均値、中央値、標準偏差など）を扱う。また、後半では、どのような数値データに対して、そのような統計グラフ（ヒストグラム、幹葉図、箱ひげ図、ビーンズプロットなど）を用いることが適切なのかを示す。

<第2室> 434演習室
「対面授業とeラーニングの効果的なブレンド法入門」
講師： 小栗 成子 (中部大学)

本ワークショップの目的は、教科書を用いた対面授業とeラーニング教材を用いた個別学習をどのようにブレンドするのかを学ぶことである。多様なeラーニング教材の中から2例をとりあげ、eラーニング教材の学習者登録、コース設定、課題指示、期限設定、学習者へのフィードバック、成績エキスポートなどの方法を具体的にみていく。また、対面授業でのアクティビティとeラーニング教材の効果的にブレンドするための教材の選び方や教師の役割についても考えていく。

使用予定教材：Focus on Grammar（ピアソン・ロングマン）、World Link DVD Course（センゲージ）

17:40-19:00 懇親会

研究発表概要

<第1室>

発表1 A different role of vocabulary knowledge in reading comprehension: A case of Japanese learners of English

吉川 りさ (名古屋大学)

Many studies on the effect of vocabulary knowledge (VK) on reading comprehension (RC) agree with the power of VK. However, few studies consider which feature of VK actually plays a role in predicting RC. Hence, the present study investigated two aspects of VK (breadth and depth) on the RC (TOEIC and TOEFL items) of 71 Japanese learners of English, using one depth and two breadth tests, and looked into the correlational and predictive relationship among the variables. We found (i) the breadth tests correlated only with TOEFL scores; (ii)

only one breadth test uniquely predicted TOEFL scores; (iii) the depth test neither correlated with nor predicted RC. Based on the results from (i) and (ii), we indicate that the test format might affect an aspect of the measurability of the participants' ability. From the result of (iii), we argue the role of VK in RC in terms of measurable features.

発表2 画像を利用したメタファー学習の可能性について—日中両言語における〈怒り〉のメタファーを例に

韓 涛 (名古屋大学大学院)

鍋島2006では大学の参加型概念教育の一環として、メトニミーの学習に（メトロン君という）キャラクターを使用した手法の有効性を論じている。こうした手法がある一方で、認知言語学におけるもう1つの重要な概念であるメタファーをいかに効果的に習得することができるかに関する報告や考察はほとんどみられない。本発表では日中両言語における〈怒り〉のメタファーを例に、画像を利用したメタファー学習の可能性について探ってみる。具体的には日本語と中国語のインターネットのサイトから〈怒り〉に関する画像を収集し、複数の画像を提示することで中国語学習者もしくは日本語学習者に日中両言語における〈怒り〉のメタファーの類似点と相違点に対する理解を促そうとするものである。

発表3 シンガポールのICTを利用した 効果的なactive learning

安達 理恵 (愛知工科大学)

3月24～27日にシンガポールを訪れ、英語教育の実情を知るためいくつかの小中学校を訪れた。学校には全ての教室に、コンピューター、プロジェクター、スクリーン完備し、授業では多様な方法でICTが利用されていた。効果的にICTを利用できる背景には、基本的にどの学校にも、教員以外にITCに詳しい専門のスタッフがいて、新システム導入の際には、スタッフが教員に使い方を伝授し、授業準備なども担当スタッフがサポートするというシステムがあることが伺えた。また中学校では、各グループにパソコンが配布され、Edmodo（教育用のSNS）を使って意見を投稿、教員が各グループの意見を教室のスクリーンにアップし、解説、生徒はプリントに正解を書く、というように有効に活用されていた。本報告では、シンガポールのICTを利用したactive learningについて、映像も交えながら、そのような効果的な利用が可能となる背景説明も加えて報告する。

<第2室>

発表1 体感音響振動を活用した聴覚障がい者の英語発話の改善—教員による音声評価の自由記述の分析—

鈴木 薫 (名古屋学芸大学短期大学部)

聴覚障がい者を対象として体感音響振動システムを活用することにより、英語プロソディ習得を促す取組について検証する。先行研究では、日本人英語担当教諭に発話データの主観的評価として5段階評価を依頼し、事前・事後の評価について実験群と統制群の統計的に有意な差の検証を行い、実験群において体感音響振動の英語プロソディ習得に与える効果が検出された。本研究では、調査の際に同時に収集した自由記述に関する分析を行う。文の発話と句・複合語の発話に関する自由記述について、テキストマイニングによるキーワード分析を行う。出現頻度や共起ネットワークから得られる情報により、実験群と統制群を比較することで、聴覚障がい者の英語発話の改善を示す要因を明らかにする。さらに、先行研究の5段階評価の結果や音響分析による解析結果と比較することによって、データ解析法による相違点の有無を検証する。

発表2 キー入力記録システムを援用したライティングプロセスの可視化：自律的学習を促すフィードバック環境構築に向けて

草薙 邦広 (名古屋大学大学院)

阿部 大輔 (名古屋大学大学院)

福田 純也 (名古屋大学大学院)

川口 勇作 (名古屋大学大学院)

外国語教育，または外国語に限らず，学術目的を念頭に置いたりテラシー教育の指導場面などでは，ライティングにおける計画，文章化，推敲のそれぞれにおける時間配分が重要視されている。

しかしながら，ライティングプロセスの明示的指導の効果や，それぞれのサブプロセスの時間配分に関わるメタ認知的能力の発達について，行動科学的なデータにより裏付けられた知見は極めて少ない。また，課題中における行動履歴を可視化し，フィードバックに援用する試みはなされていない。

そこで本研究は，キー入力記録システムを援用し，語数の時系列変化の図示やライティングプロセスに関する量的指標の算出を自動的に行うソフトウェアを開発した。発表では，自律学習を促すフィードバック環境を視野に添えながら，理論的背景の概観，ソフトウェアの仕様と，大学生のエッセイによるデモデータの紹介，及びライティングプロセスのメタ認知に関わるインタビューデータへの考察を行う。

発表3 英語母語話者と学習者の読解における処理単位に関する研究—視線計測による単語の読み飛ばしの観察データに基づいて—

杉浦 正利 (名古屋大学)

梁 志鋭 (名古屋大学)

阿部 大輔 (名古屋大学大学院)

人は読解時に一文字ずつ読むのではなく、注視とサックード（ジャンプ）を繰り返して読み進む。サックード中は視覚情報は処理されず読み飛ばしが起きる。しかし読み飛ばされた箇所が処理されていないわけではなく、直前の注視の時点で既にそこまで処理されていると考えられる(Rayner, 1998, 2009; Schotter, Angele, & Rayner, 2012)。このサックードを手がかりとすることで読解時の処理単位を推測することができる。門田(2007)による先駆的な視線計測の観察報告はあるが、L1とL2との直接的な比較は行われていない。

本研究では、英語母語話者と学習者（24名ずつ）とで同じ実験項目を使い視線計測を行い、サックード時に単語が読み飛ばされる確率と、その単語の頻度・語長・遷移確率との関係を一般化線形混合モデルにより分析した。発表ではその結果を報告し、母語話者と学習者の読解における処理単位の違いと、その処理に影響を及ぼす要因とを考察する。

発表4 エクセルを用いた統計学的分析と音声ファイル編集ソフトの活用

飯尾 晃宏 (静岡県立浜松湖南高等学校)

本発表は、タスクとしてのペア・ワークを実施し、インタビュー・テストを行ってタスクがコミュニケーション能力向上に有効であるかどうかを検証した際の実践報告である。報告の内容は主に2点で、1つ目は、テスト・パフォーマンスを量的に分析するための統計学的手法であり、2つ目は、談話内容を質的に分析するための音声データの処理法である。前者の量的分析にはマイクロソフト・エクセルを用いて、一元配置の分散分析、t検定、そして相関係数の算出などを行った。そこで、そ

のような統計学的分析をどのような目的で、どのように行ったのかを発表する。また後者の質的分析のために、音声データを確実に書き写す目的でオリンパス・ソノリティ（音声ファイル編集ソフト）を用いた。このソフトウェアの利点は、音声データからノイズを除去したり、再生速度を調整したりできることである。そこで、ソノリティについても「メディアの効用」という視点から本発表の内容とする。

賛助会員展示

株式会社ニュートン	http://newton-jp.com/
センゲージラーニング株式会社	http://cengage.jp/elt/
チエル株式会社	http://www.chieru.co.jp/
株式会社ピアソン桐原	http://www.longmanjapan.com/
電子システム株式会社	http://densys.jp

(受付順)

大会参加のご案内

- 会員の方の参加費は無料です。非会員の方は参加費1,000円を受付でお支払い下さい。
- LET会員として入会手続きをしていただきますと、当日参加費から無料になります。また会員は、LET全国研究大会、支部研究大会での研究発表、紀要への投稿などができます。

第82回（2013年度秋季）支部研究大会のご案内

- 次回第82回の支部研究大会は2013年11月9日（土）、中部大学での開催を予定しています。
- 研究発表の受付は2013年9月に支部Webサイトにてご案内します。

LET中部支部Webサイト：<http://www.LETChubu.net/>